

---

## ロシア史研ニューズレター

ОБЩЕСТВО ИССЛЕДОВАТЕЛЕЙ ИСТОРИИ РОССИИ

No. 101

April 2016

---

### 2016年度大会は10月8日～9日 東北大学にて大会開催 自由論題・パネル報告募集

今年度のロシア史研究会大会は10月8日(土)、9日(日)の二日間、東北大学川内南キャンパスで開催されます。

共通論題提案は既に締め切られておりますが、自由論題報告・パネルの応募締め切りは5月5日(木)ですので、題目、概要を添えて事務局(shukran\_afwan(at)hotmail.com ※(at)は@に置き換えてください)鶴見宛にふるってご応募ください。

また大学院生等による自由論題報告に対する交通費補助制度を設けました。詳細は3頁をご覧ください。



(会場となる文科系総合研究棟)

## 【ロシア史研究会 12 月例会レポート】

見目典隆(東京大学大学院人文社会系研究科)

12 月 19 日 土曜日 東京外国語大学本郷サテライト 4 階セミナールーム

題目:ソ連のシベリア・極東開発と冷戦:ブレジネフ期のエネルギー政策を中心に

報告者:藤沢潤(早稲田大学ロシア研究所研究員)

本報告は、冷戦と経済の関係性という観点からアプローチした意欲的な研究である。従来、冷戦の研究において、伝統的であった米外交史を基準とした枠組みでは、ソ連の対外経済関係を冷戦の中に位置づけることが困難であった。この先行研究の問題点を出発点に、報告者が焦点を当てたのが、ソ連政治経済及び国際関係を規定する大きな要素であった資源・エネルギー問題である。本報告が対象とする時期は 1973 年までである。1973 年以後はオイルショックによる石油価格の高騰を受けて、ソ連経済は超過利潤を得ることとなり、こうしたオイルマネーを背景に対外的な積極策に打って出る時期である。では、オイルショック以前のエネルギー政策はどうだったのか、報告者は Gosplan の政策決定過程を中心に検討しながら、資源開発政策と対外経済の連関を検討した。1966 年に生産諸力研究会議によってシベリア・極東の開発が検討され、10 年ほどの総合的開発の必要性が訴えられた。資源と産業の中心地がアンバランスに存在するソ連の地理的状況を考慮した上で、ソ連ヨーロッパ部のエネルギー不足を解消しつつ、エネルギー集約産業基盤を資源地帯に作り出すべく、シベリア・極東の総合的な開発が要請された。とりわけ、極東開発については、激化する中ソ対立を受けて、対中国の前線基地としての色合いを帯びることとなった。しかし、この構想は様々な問題が重なり、散発的な開発にとどまった。すなわち、開発を行う際に必要となる莫大な資本を確保することができず、総合的に開発することが困難であることが判明したのである。こうした状況の中で、シベリア産の石油・天然ガスより安価な石油・ガスの輸出を打診したのがイランであった。しかし、この取引もソ連・イラン間で認識の齟齬が生じていた。すなわち、イラン側は石油生産に関して西側石油会社の譲歩を引き出すための外交カードとしてソ連を使ったというのである。さらに、天然ガスの輸入については、ソ連内のガス工業省からの反対のために頓挫することになった。こうした中、オイルショックがデウス・エクス・マキナの如くソ連経済の問題を一時的に麻痺させ、ソ連は経済における資源依存度を強めていくことになった。参加者のなかからは、COMECON 諸国との経済関係のような国際政治に関連したテーマや、ソ連の各省庁エリートのコスト意識といった問題が議題に上り、活発な議論が行われた。



(写真は例会の様子)

### 【大会自由論題報告への交通費補助について】

例会交通費支給規程を準用し、大学院生等会員の研究活動を資金的に支援するため、遠方の会員(学振研究員を除く大学院生・非常勤)の自由論題報告に対し、交通費実費の片道分(上限有)を補助します。

ご希望の方は報告申込のメールに「交通費補助希望」と記入してお送りください。

-----  
ロシア史研ニューズレター  
第101号 2016年4月6日発行  
編集・発行 ロシア史研究会委員会  
(立石洋子、金山浩司)

〒153-8902  
東京都目黒区駒場3-8-1  
東京大学大学院総合文化研究科  
地域文化研究専攻 鶴見研究室気付  
ロシア史研究会事務局  
-----